

個別指導計画

<本児が必要としていること>

- ・学習でつまづいた時の、個別的支援
(学習でのつまづきを少なくするための事前学習や、解決するための方策を学ぶこと)
- ・苛立った気持ちに気づき、適切な解消方法を身につけること
- ・見づらさに対する支援
- ・自尊感情が高まるような他者からの評価、自己評価に接する機会を多く経験すること

<将来的に考えていきたいこと>

- ・自分の特徴を自覚し、自分を否定的に感じないこと
- ・自分のすべきことの段取りをある程度つけられる方策を身につけること
- ・感情のコントロールを図る方法を身につけていること
- ・苛立った時の適切な解消方法、表現方法を身につけていること

長 期 目 標	主な指導の場
①苛立ってきたことに気づき、教師の支援を受けながら気持ちを静める行動を選択することができる。	通常の学級・個別
②トラブルがあった時に、あとから自分の行動を振り返り、言語化することができる。	個別・通常の学級
③行をとばさずに正しく音読することができる。	個別
④文字の形やバランスに気をつけながら、正しくひらがなや漢字を書くことができる。	個別

<短期目標：1学期> (抜粋)

	目 標	手立て (指導者)	評 価
1 学 期	<p>①苛立ってきたことに気づくことができる。</p> <p>①苛立った時に、教師の支援によって叩いたり、蹴ったりすることをやめることができる。 (学期末までに可能に。対物的な攻撃行動でも同様)</p> <p>②自分の行動を振り返ることができる。</p> <p>③補助具を用いて読みやすさを体験する。</p> <p>④正しい表記と誤った表記の双方から、正しい表記を選択することができる。</p> <p>④ へんやつくり気をつけて正しく低学年の漢字を書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情が変わってきたことに目を向けられるように、感情カードを用意する。(学級担任) ・「やめなさい」等の禁止や制止の表現を用いず、「口で言って」「先生に教えて」等、とるべき行動を具体的に示した表現を用いる。(校内全職員) ＊我慢したり、他の手段を選択することで、認められたり困ったことが解決したりするよう援助する。評価表等の使用も併せて行う。 ・落ち着いてから、個別に振り返りの時間を設けるようにする。 ・「よい」「悪い」の価値判断を優先せず、どう感じたか、どう振る舞ったか、他に方法があるか等を一緒に考えていくようにする。 (学級担任、特別支援学級担任) ・教科書を読むときに行がとばないように、隣の行を隠す厚紙等を用意する。(学級担任) ・ひらがなの拗音(拗長音)の表記について、正しい表記を選択できる段階から学習を始め、自信と意欲を持たせる。 ・漢字を部分に分け、各部分を言語化することで、へんやつくりについて意識させる。 	